

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士（医学）	氏名	三村 理恵
審査担当者	主査 教授	篠原	信雄
	副査 教授	岩永	敏彦
	副査 教授	水上	尚典
	副査 教授	秋田	弘俊

学位論文題名

卵巣境界悪性腫瘍と卵巣癌の半自動的手法を用いた拡散強調像のヒストグラム解析の比較：充実部分に着目して

(Comparison between borderline ovarian tumors and carcinomas using semi-automated histogram analysis of diffusion-weighted imaging: focusing on solid components)

本研究は、卵巣境界悪性腫瘍と卵巣癌の充実部分の ADC 値のヒストグラム解析で、Mode、Minimum、Mean、10th、25th、50th、75th percentile 値が両群の鑑別に有用で、妊孕性温存の観点からは、特異度が高値を示す 10th percentile 値が有用である可能性を示したものである。

審査にあたり、副査の岩永教授より、境界悪性腫瘍と卵巣癌の由来の違いの有無について、卵巣癌の由来について質問があった。また、今回の画像所見の結果と病理学的所見との対比は是非すべきとの意見があった。次に、副査の秋田教授より、同じ組織型の境界悪性と卵巣癌の ADC 値の検討について、その予測される結果について質問があった。さらに、症例選択におけるバイアスの有無、腫瘍の組織型の内訳についての確認があった。続いて、副査の水上教授より、卵巣境界悪性腫瘍の卵巣癌へと移行する可能性、卵巣癌と卵巣境界悪性腫瘍の組織学的な違いについて、質問があった。また、今回評価した充実部分に腫瘍細胞以外の構造も含まれている可能性、さらに今回用いた手法の臨床応用について質問があった。今回の画像所見の結果と腫瘍マーカーなどを組み合わせることで正診率が期待できるかもしれないとの意見があった。最後に、主査の篠原教授より、MRI 以外の検査法で境界悪性と卵巣癌の鑑別は鑑別し得るのか、MRI での鑑別における利点についての質問、今回用いた手法が独自のものであるのかの確認があった。

これらの質問や意見に対し、申請者はその主旨をよく理解し、自らの研究内容や過去の文献的考察を混じえて適切に回答した。

本研究で得られた結果は、鑑別が難しいとされている卵巣境界悪性腫瘍と卵巣癌の画像診断において、両群の鑑別や妊孕性温存の向上に寄与することが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。